

「ムベの花」

緑地の花広場のフェンス際に、釣鐘のようなかわいい花がいっぱい咲いています。秋に長寿の象徴とされるおいしい実をつける、ムベです。



ムベ 雄花

花は、花弁が6枚あると思っていたのですが、よく見ると、これが太いものと細いものが3つずつ交互になっています。へえー、おもしろい形…でも調べてみたら、これは花びら

ではなくて6枚ともガクなのだそうです。えー、どうして？ 花びらとガクって、どう違うの？

小さくて中が紫っぽい花は雄の花、中にはおしべが円錐状にくっついていて、大きめで白い花は雌の花、雌しべが見えます。雄と雌の花があるのですね。

自分の花粉を自分のめしべにつけないようにという工夫でしょうか。誰がそんなことまで考えて花を作っているのか、考えると不思議です。

もう一つ、ムベは葉にも不思議があるそうです。幼い時は葉っぱが3枚、大きくなるにつれて5枚、そして実がなるころには7枚になるとか。753も成長を祝う、おめでたい数ですね…それは、数えていなかった。今度緑地にお散歩に行ったら、数えてみましょう。

(小川)



ムベ 雌花



名前の由来：ずっと昔、天智天皇が狩りに出かけて、とても元気の良いおじいさんとおばあさんに出会いました。どうしたらそんなに元気よく暮らせるのかと聞くと、「この果物を食べているから」と答えて指さしたのがムベだったそうです。天皇は一口食べて、「むべなるかな」と納得したとか。秋に実るムベの実を食べて、皆さんも長寿にあやかって